

船井情報科学振興財団 留学報告レポート 2014年11月
方 弘毅 (PhD 取得コース)

2011年9月からアメリカ合衆国のマサチューセッツ工科大学 (MIT) の航空宇宙工学専攻 (Department of Aeronautics & Astronautics) の博士課程に所属しています、方弘毅です。MIT 生活は4年目に差し掛かり、卒業も少しずつ見えてきました。

私の前年度から今年度への最大の変化は funding の状況でした。今年の6月まではありがたいことに船井奨学金をいただいていたのですが、9月からの秋学期は自分で学費+生活費を稼ぐことになりました。今学期の場合、私は研究に関係のある授業の Teaching Assistant (TA) をさせていただくことになりました。そこで、このレポートでは、TA のことについてまとめたいと思います。

アメリカの大学では、大人数の授業には TA がついていて、その TA が教授の仕事をお手伝いします。TA という職は、大学にもよりますが、通常フルタイムの学生の職で、学費全額+生活費毎月\$2300 程度の収入で、基本的にその収入のみで生活に支障がないようになっています。(私の場合は例外的で、RA と TA を掛け持ちをすることでその額をいただいています。) プログラムによっては TA は卒業に必須ですが、私のプログラムはそうではなくて、学費+生活費を確保するための手段です。

TA の仕事は授業や先生の方針によってさまざまですが、以下に私の経験を述べたいと思います。私の TA している授業は応用数学の授業で、6回の課題と2回の試験によって成績が評価されます。TA の仕事には主に以下の4つがあります。

- 課題作成・模範解答作り：私の TA した授業は2週間ごとに課題があり、その課題の問題と模範解答を作成するのは TA の仕事です。とはいっても、すべての問題をオリジナルにつくる必要はなくて、過去問を利用したり、教科書の問題を課したり、時々先生が提案してくる問題を取り入れたりして、各分野に満遍なくわたるように出題します。また、課題の中の難しさのバランスなども調整します。
- 課題採点：課題の締め切りが来て、学生から課題が提出されると、その課題の採点も TA の仕事です。採点基準を決め、各学生を採点していき、フィードバックを返し、課題の点数を成績管理システムに入力します。次の授業時には返却しなければいけないので、ここはスピード勝負になります。
- 試験模範解答づくり：試験の模範解答作りは TA の一番難しい部分と言っても過言ではありません。私の授業では2回試験がありますが、先生が問題を作成し、それをまず TA が解いて、その問題が時間内に解けるか、難易度はどういうものか、についてのフィードバックを返します。その TA の答案が模範解答となり、先生が学生の答案を採点します。そのため、TA はパーフェクトに先生の作成した問題に答えなければいけません。いくら授業の内容はわかっているとはいえども、他人のつくった問題に対して完璧な模範解答をつくるのはなかなか難しいです。
- オフィスアワー：週3時間の授業以外に、TA は毎週オフィスアワーの時間を持ちます。これは、学生が課題や試験勉強で質問を持ってきて、それに対して TA が答える場です。日本の感覚だと、あま

り学生が来ないと思われがちですが、私の授業では毎週何人もの学生が来て質問攻めをします。特に難しい課題の締め切りや試験前は、オフィスアワーの時間内に質疑が終わらずに、追加のオフィスアワーも設けなければいけないときもありました。

先生にはできないTAの最大の仕事は、学生と近い距離で対話することです。オフィスアワーを通して学生と毎週会い、課題を採点して学生の出来を一番把握しているのがTAです。いつも世話してる各学生の試験の点数を見るときは、わが子の成績表を見るような気分です。

アメリカでは、アカデミアの道を進む場合、TAの経験が重視されます。それだけ、授業による教育に重きを置いている証拠かもしれません。TAによる仕事はやはり大変で、その間に研究の進捗も鈍りますが、そのような教育の側面からアカデミアを見られたのは貴重な経験でした。今後もその経験を生かし、引き続き博士取得に向けてがんばっていきたいと思います。

最後になりましたが、今年6月までの3年間もの間ご支援くださった船井情報科学振興財団に厚くお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。